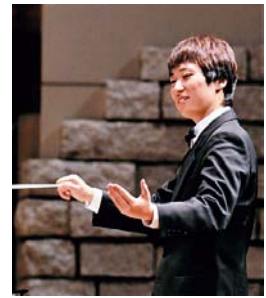


歌の力，子どもたちの力 ～小学校合唱指導ボランティア～ (20140022V)

しらかわ 白川 りょう 稜 (人文・文化学群 人文学類 3年)



はじめ

僕が所属する筑波大学混声合唱団に、ある日ひとつの依頼じみた報せがやって来ました。「音楽指導者がいない小学校で、子どもたちに合唱指導をしてみないか」……はじめは面食らいました。いままで学生指揮者として合唱の指揮指導をしてきましたが、それは気心の知れた団員を相手に、1年かけてじっくりやってきたことです。外部の、しかも小学生を相手に1か月かそこらでいったい何をすればいいのか、すぐにはイメージが付きませんでした。

詳しく聞いてみると、今回お話をくださった阿見町立実穀小学校には音楽を専門に指導できる先生がいなく、10月の阿見町音楽会での発表に向けて合唱の指導ができる人を探している、とのことでした。たしかにうちに話が来るのもまあわかる。とはいえ、僕らも別に音楽の先生ほど専門的な知識があるわけではありません。逡巡はしました。でも、なんだかんだで人よりずっと合唱に対して真摯に向き合ってきたことは確か。こんなアマチュアの一合唱団の、ただの学生指揮の力が少しでも役に立つならと、指導を承りました。

指導の難しさ、そして

どきどきの初回指導、合唱団員5人vs.子どもたち約50人。慣れないこともあり、うまくいかないことの連続でした。歌の指導はできても、子どもたちの扱いに関してははずぶの素人です。授業時間2時間をいただいているにもかかわらず、子どもたちをまとめ上げられないまま、ただただ慌ただしく時間が過ぎてしまいました。

小学生に合唱指導をする、ということの難しさを痛烈に感じました。子どもたちは誰も、こうやって合唱をすることを望んでいないのではないか。そんな思いも頭を巡り、指導に対する自信を早くも失くしかけていたとき、ある児童からこんな問いかけが。

「ねえ、白川先生は、どっちの曲が好き？」

今回発表する予定の曲は2曲。その2曲のうちのどちらが好きかどうかを尋ねる言葉でした。「どっちも好きだけど、こっちかな」などと答えると、周りの子たちから「わたしも好き!」「え、おれはこっちが好きだな」といういろいろな声。ああなんだ、みんな、歌が好きっていう気持ちはちゃんとあるんだ。

歌が好きと言ってくれている限り、みんなが好きな歌をこっちが勝手に諦めちゃいけないな、と気合を入れ直し、次の指導のために準備をしていきました。

妥協しない音楽をめざして

その後の指導でも思うようにいかないことは確かにありましたが、団員の協力や、実穀小学校の先生方の助言、そして何より子どもたちの歌に支えられながらなんとか指導を進めることができました。聴くたびに進化していく歌に対して、小学生だからと妥協せず、いつも団員に指導するときと同じように、本物の音楽を伝えられるよう心掛けたつもりです。

そして指導最終日、初日に比べ格段に上達しているみんなの歌に、ただただ感動しました。自分たちは、ほんの数回、時間をもらってアドバイスをただけです。ここまで上達したのは、間違いなく、僕らのいないところで頑張ってくれたみんなの力でしよう。最後に「みんなはきっともっと歌える力を持ってるから、妥協せずに最後の最後まで頑張り続けてほしい」とだけ伝え、僕らからの指導を終えました。音楽室から出るときは、子どもたちが腕で背の低いアーチを作ってお見送りしてくれました。

合唱の力

本番は龍ヶ崎市民会館の大ホール。僕らからしてもうらやましいくらいの立派なホールで歌うみんなの姿を、こっそり見に行きました。練習で苦戦していたところもしっかり歌い切り、のびのびとしたいい演奏でした。

音楽の中でも合唱という分野は、なんとなく敬遠されがちなイメージ。しかし子どもたちの歌を聴いていると、声をそろえて歌うとこんなに強いエネルギーが表現できるんだ、と改めて合唱の持つ力をありありと感ずることができました。この話を受けてから、また来年も、とか、うちの学校でも、とかいうお声をいただくこともあり、こういった縁も合唱の持つ力かなと思ったりします。今回の活動は、合唱というものについて一度立ち止まって考えるいい機会になりました。初めは不安もありましたが、今では今後の音楽の糧となる経験を与えてくれた皆さんに心から感謝しています。